

国名 (アイウエオ順)	現在の一般生活に関する制限	現在の撮影に関する制限 およびリモート撮影の可否	リモート撮影時の 撮影許可必要性	地方ロケについて	現在も撮影可能な 国内の有名観光地	外国人入国の可否 および入国時の条件	現地クルーに聞いた 新型コロナウイルスによる影響や問題点
アンゴラ	▶都市間の移動制限中 ▶国内移動には特別許可が必要	▶大勢の生徒がいる学校の教室内は撮影不可 ▶政府、警察関連の建物は撮影禁止 ▶上記以外の場所であれば 撮影取材可能	現地クルーは 撮影許可必要なし	▶国内移動には特別許可が必要 ▶移動許可があれば地方ロケ可能	▶首都ルアンダの海岸線やビル群、城塞 ▶カランドウーラの滝 ▶月のビューポイント ▶アンゴラ南部のナミブ砂漠 ▶ペドロス・ネグラスの巨石群 ▶セラ・ダ・レバ峠のつづら折り道路 など	▶現在も国境閉鎖中 ▶外国人の出入国には特別な手続きが必要 (一般外国人の出入国は実質的に不可能) ▶入国には陰性証明書が必要 ▶入国後は14日隔離される	▶教育施設や医療施設が足りない ▶失業者の増加など
ウガンダ	▶全土で移動制限解除、外出時のマスク必須 ▶21時から5時半までの外出禁止令発令中 ▶バイクタクシーを除く公共交通機関の使用禁止 ▶学校、教会、モスクは引き続き閉鎖中 ▶バー、ナイトクラブ、パブは営業禁止 ▶飲食店、スーパーなど午後8時頃までには閉店	▶撮影許可を取得すれば 撮影取材可能 ▶国境、学校・宗教施設など閉鎖中施設は撮影不可 ▶ブウィンディ原生国立公園閉鎖中、ゴリラの撮影困難 ▶撮影クルーもマスク着用は必須	現地クルーだけでも 撮影許可証が必要	▶地方でも撮影可能 ▶都市部も地方も撮影のしやすさは大差なし	▶クween・エリザベス国立公園 ▶マーチソン・フォールズ国立公園 ▶国鳥のホオジロカンムリヅル など	▶国際空港閉鎖中 ▶一般外国人の入国は再開されていない (9月に再開されるというウワサあり) ▶海外居住のウガンダ人には帰国便が手配されている ▶入国後14日間のホテル隔離必須	▶再度のロックダウンに対する不安 ▶来年1月の大統領選に向けた与野党間の緊張の高まり
エジプト	▶人の密集する場所ではマスク着用 (スーパー・ショッピングモール・クラブ等) ▶その他は元の生活に戻りつつある	▶撮影許可を取得すれば 撮影取材可能 ▶ただし人の密集する場所や集会での撮影は不可	現地クルーでも 撮影許可証が必要	▶コロナ前同様、地方のほうが撮影しやすい (警察に撮影許可の提示を求められ足止めされる頻度が低い)	▶ギザの三大ピラミッド ▶ジゼル王のピラミッド ▶ルクソール神殿、カルナック神殿 ▶フィラエ神殿 ▶アブ・シンベル神殿 など	▶首都 カイロの国際空港は外国人入国不可 ▶フルカダ国際空港、シャルム・エル・シェイク国際空港など その他の空港では観光客も出入国可能 ▶入国には陰性証明書が必要	▶経済活動は徐々に再開しつつある ▶崩壊した経済を立て直す必要がある ▶ほとんどの日本人駐在者が日本帰国中で仕事が進んでいない
エチオピア	▶ロックダウン措置はとられず、生活はそれほど変化なし ▶商業活動は21時まで ▶マスクの着用義務 ▶結婚式や他重要な行事を除き4名以上の集会禁止	▶撮影許可を取得すれば 撮影取材可能 ▶ただし撮影クルーもマスク着用は必須 ▶通常時よりも頻りに撮影許可証提示を求められる	現地クルーだけでも 撮影許可証が必要	▶政治的不安定状態にある地方あり ▶州によっては州政府からの撮影許可が必要 ▶暴動により封鎖されている道路があるために国内線での移動が望ましい ▶都市部のほうが撮影しやすい	▶ラリベラ・アクスム・コンダールなどの教会群 ▶ダナキル低地 ▶シミエン山国立公園 など	▶国際空港や国境は開いている ▶エチオピア航空が74か国に就航している ▶指定国からの 一般外国人の出入国は可能 ▶5日以内に実施された検査の陰性証明書が必要 ▶入国後3日間の自己隔離を推薦 (強制ではない)	▶現在も新型コロナが感染拡大傾向にある ▶政策への不満のため、最大民族オロモ人が暴動を起こしている ▶コロナではなく国内での暴動のほうが大きな問題となっている
ガーナ	▶市民生活は通常に戻りつつある ▶学校やスポーツ、イベントの開催には制限あり ▶マスクの着用義務 ▶国際線フライトは9月1日より再開	▶撮影許可を取得すれば 撮影取材可能 ▶ロケ地によっては撮影が難しい場所や時間帯あり ▶撮影クルーもマスク着用は必須	現地クルーだけでも 撮影許可証が必要	▶移動制限が解除され、通常通り移動可能 ▶都市部よりも地方のほうがロケしやすい (地方のほうが撮影交渉手順が簡潔なため)	▶モレ国立公園などの野生動物 ▶ケープコーストやエルミナ等の要塞 ▶キンタンボの滝 ▶バガの聖なるワニ ▶カクム国立公園のキャンピーウォーク など	▶9月1日より国際空港再開 ▶指定国からの 一般外国人の出入国は可能 ▶72時間以内に発行された陰性証明書の提出義務 ▶空港にてコロナ検査を受ける (結果判明まで約30分)	▶コロナによる死者数はそれほど多くなく、回復者数も多い ▶新型コロナによる経済的・社会的ダメージが大きい ▶国内でコロナによる暴動などは起きていない ▶医療機関はよく対応しているが、困難な状況にあるところも
ケニア	▶全土で移動制限が解除され、自由に行動可能 ▶21時から4時までの夜間外出禁止令発令中 ▶ホテルを除くバー、ナイトクラブ、パブは営業禁止 ▶飲食店の営業は20時までに制限	▶撮影許可証を取得すれば 撮影取材可能 ▶ただし撮影クルーもマスク着用は必須	現地クルーだけでも 撮影許可証が必要	▶移動制限はなく、地方でも撮影可能 ▶都市部も地方も撮影のしやすさは大差なし	▶マサイマラ国立保護区 ▶アンボセリ国立公園 ▶ワタム、ディアニなどの海洋国立公園 ▶ケニア山国立公園とその周辺 など	▶8月1日より商用便の運航が再開 ▶指定国からの 一般外国人の出入国は可能 ▶搭乗前96時間以内発行の陰性証明書が必要 ▶到着時の体温37.5℃以下、コロナの症状がないこと ▶機内感染が発生した場合、前後2列の者は隔離	▶観光立国のため、海外旅行者減による経済的ダメージが大きい ▶産業界の売上減少、店舗や製造工場の閉鎖 ▶経済悪化で日銭暮らしの貧困層が困窮 ▶この二カ月に路上で物乞いする者たちが増加。 ▶コロナを恐れない風潮あり、コロナ対策義務が無視される傾向
ザンビア	▶生活はほぼ日常に戻った ▶マスク着用等の制限あり(罰金・懲役刑有)	▶撮影許可を取得すれば 撮影取材可能 ▶市場など人の集まる場所も撮影可能	現地クルーだけでも 撮影許可証が必要	▶移動制限はなく、地方でも撮影可能 ▶都市部も地方も撮影のしやすさは大差なし	▶ビクトリアの滝 ▶カリバ湖 ▶国立公園 ▶ワニ園 ▶カリバダム など	▶指定国からの 一般外国人の出入国は可能 ▶空港は再開されている ▶14日以内に実施された検査の陰性証明書必要 ▶空港でランダムにPCR検査を実施 ▶陰性証明が無い者は2週間の隔離または入国拒否	▶人々は日々の経済活動を継続している ▶コロナに感染したら、その時はその時という態度が多い ▶多くの人がマスクを着用しているが、感染は広がっている
ジンバブエ	▶20時～6時の夜間は外出自粛措置 (取り締まりはなく誰も守っていない) ▶集会は50人までに制限 ▶移動制限解除、外出時のマスク着用必須 ▶学校や教会などの公共施設は営業中 ▶バー・ナイトクラブは閉鎖中	▶撮影許可を取得すれば 撮影取材可能 ▶少人数クルーでの撮影であれば、許可取得不要。 ▶撮影クルーのマスク着用は必須。	現地クルーだけでも 撮影許可証が必要 (少人数であれば許可不要の場合あり)	▶地方の方が許可なしで撮影しやすい ▶都市部は必ず許可が必要	▶ビクトリア・フォールズ ▶カリバダム ▶グレート・ジンバブエ遺跡 ▶伝統的な呪術医 など	▶空港や国境は封鎖中、11月に再開のウワサあり ▶一般外国人の入国は再開されていない。	▶コロナによる経済的打撃が深刻 ▶医療体制が脆弱であること
セネガル	▶2ヵ月前程に比べて自由に国内移動できるように ▶公共の場でのマスク着用は必須	▶撮影許可を取得すれば 撮影取材可能 ▶ただし撮影クルーもマスク着用は必須	現地クルーだけでも 撮影許可証が必要	▶移動制限はなく、地方でも撮影可能 ▶都市部も地方も撮影のしやすさは大差なし	▶奴隷貿易のゴレ島 ▶ピンク色の湖ラック・ローズ ▶ティレンネ市場 ▶スベジウム魚市場 ▶ケルメル市場 ▶アフリカ・ルネサンスの像 など	▶指定国からの 外国人の出入国は可能 ▶空港は再開されている ▶入国時に直近の陰性証明書必要	▶不況下にあり治安が悪化している ▶コロナに関しては国は頑張っているという意見が一般的
セーシェル	▶公共の場でのマスク着用は必須 ▶新型コロナによる行動制限は特になし ▶10月24日総選挙で40年ぶり政権交代の可能性 ▶コロナではなく政治的原因で国が緊迫している	▶選挙が落ち着くまでは 全ての撮影が撮影不可能	撮影不可能	▶不可能	▶撮影可能な場所はなし	▶フランス人は入国可能 ▶状況は常に変っており、再度入国禁止となる可能性あり	▶総選挙が終わるまでは何もできないこと

国名 (アイウエオ順)	現在の一般生活に関する制限	現在の撮影に関する制限 およびリモート撮影の可否	リモート撮影時の 撮影許可必要性	地方ロケについて	現在も撮影可能な 国内の有名な観光地	外国人入国の可否 および入国時の条件	現地クルーに聞いた 新型コロナウイルスによる影響や問題点
タンザニア	▶全土で移動制限解除、自由に行動可能 ▶国際便が多数乗り入れ再開 ▶出入国制限や入国後の隔離措置なし	▶撮影許可を取得すれば 撮影取材可能 ▶ただし撮影クルーもマスク着用は必須	現地クルーだけでも 撮影許可証が必要	▶移動制限はなく、地方でも撮影可能 ▶都市部も地方も撮影のしやすさは大差なし	▶セレンゲティ国立公園 ▶ンゴロンゴ国立公園 ▶アフリカ最高峰のキリマンジャロ山 ▶ザンジバルなどのビーチリゾート ▶農村風景などもおすすめ など	▶ 空路・陸路ともに一般外国人入国可能 ▶検温時に熱が無ければ入国後の隔離措置なし ▶陰性証明書は不要 (出発国・経由国で求められる場合は必要)	▶コロナによって特に観光業が大きな打撃を受けた ▶観光業をはじめ、経済の悪化が懸念されている
ナイジェリア	▶国民全員マスク着用義務 ▶22時以降の夜間は全土で外出禁止 ▶教会は半分の定員で再開 ▶食料品市場は週3日・15時まで再開	▶撮影に関する制限はなし ▶ 通常どおりの撮影取材が可能	現地クルーは 撮影許可不要なし	▶都市部も地方も撮影のしやすさは大差なし ▶22時以降外出禁止のため、地方ロケの場合は 宿泊する必要がある	▶ナイキアートギャラリー ▶レッキ保護区 ▶オムロロック ▶オスン・オショゴボの墓 ▶ニューアフリカ神殿 ▶カノ市の壁 など	▶9月5日より空港再開予定。 ▶指定国からの 一般外国人の出入国は可能 (ナイジェリア人の入国を許可している国のみ可能) ▶入国時にコロナ検査を受ける ▶入国後は7日間の隔離が必要	▶医療施設や医療器具の不足 ▶多くの人々が今でもコロナウイルスを信じていない ▶多くの人々がマスクを着用していない ▶物価が上がり通貨価値が下がり、一般市民の生活が困窮
ナミビア	▶ウィントフック、オカハンヤ、レホボスは移動制限有 ▶ウォルビスベイ、スワコプムント等の移動制限は解除 ▶20時～5時の夜間は外出禁止	▶夜間は外出禁止なので撮影不可能 ▶移動制限のある都市では地元クルーによる撮影に ▶上記を除けば 撮影取材可能	現地クルーは 撮影許可不要なし	▶都市部も地方も撮影のしやすさは大差なし	▶フィッシュリバーキャニオン ▶コルマンスクープ ▶ナミブ砂漠(ソサスフレイ) ▶スワコプムント ▶ウォルビスベイ ▶エババの滝 ▶エトージャ国立公園 など	▶首都の国際空港は9月1日から試験的に再開 ▶ 9月1日から一般外国人の出入国が可能 ▶入国に関する規定は2週間ごとに見直される ▶72時間以内に発行された陰性証明書の提出義務 ▶入国時検温、健康問診票、スケジュール提出義務	▶感染者数はまだ増加傾向 ▶感染者数が高い複数の都市が出入禁止となっている ▶感染者数は爆発的に増加しておらず、高止まり状態 ▶人々は落ち着いて生活しているものの、失業者が増加中 ▶経済の低迷により、今後の状況が心配されている
ボツワナ	▶10月まで国家非常事態宣言中 (延長の可能性有) ▶急速ロックダウンが再開される可能性有 ▶公共の場ではマスク着用が必須 ▶入店した商店などで各自の行動が記録される	▶撮影許可を取得すれば 撮影取材可能 ▶マスク着用・社会的距離などコロナ対策必須	現地クルーだけでも 撮影許可証が必要	▶現時点では地方ロケも可能 ▶急なロックダウンや移動制限が起こる可能性有 ▶国内線は運行しておらず陸路移動のみ	▶チョボ国立公園 ▶オカバンゴ・デルタ ▶ツォディヒルズ など	▶ 一般外国人の入国は再開されていない ▶同国居住者・国民は14日間隔離のうえ入国可能 ▶非常事態宣言が終了する 10月より観光客受入が再開される可能性有	▶経済が不安定となったこと ▶感染拡大中の南アフリカからウイルスが流入するリスク (ボツワナは90%の物資を南アに頼る) ▶国内感染者は依然少なく、医療機関はコロナによく対応している
マダガスカル	▶ロックダウンが緩和され、経済活動は再開 ▶22時～4時の夜間は外出禁止 ▶首都アンタナナリボへは移動の制限有 ▶首都以外の地域はほぼ自由に移動可能 ▶国内線は再開されたが国際線は運行していない	▶政府関連施設、警察等の治安部隊等は撮影禁止 ▶上記を除けば撮影許可を取得すれば 撮影取材可能	ロケ地によっては 現地クルーでも 撮影許可証が必要	▶都市部での撮影には治安面から注意が必要 ▶町や村を結ぶ街道も時間帯により注意が必要 ▶村落部では事前に役場や長老などへ挨拶	▶バオバブの林 ▶原猿類 ▶固有種の動植物、爬虫類、両生類 ▶ビーチやサンゴ礁 など	▶ビザ発給停止、国際線運行停止中 ▶ 一般外国人の入国は再開されていない ▶10月1日よりヌシベ島への国際線再開予定 ▶ヌシベ島以外の場所への国際線再開は未定 ▶出発前と到着後はPCR検査が必要	▶コロナが小康状態となりロックダウン緩和、経済活動が再開 ▶国際機関等からの多くの援助金の大半が消失 ▶大統領や政府官僚への不信任はこれまでに高まっている ▶軍や警察は恩恵に預かっているためクーデターには発展しないか
南アフリカ	▶22時～4時の夜間外出は禁止 ▶仕事に必要な場合のみ夜間外出許可がおりる ▶50人以上の集会禁止 ▶2mの社会的距離推奨 ▶公共エリアでのマスク着用義務 ▶公共の乗り物は乗車人数に制限あり	▶22時～4時の夜間撮影には許可が必要 ▶マスク着用、社会的距離確保などコロナ対策が必要 ▶上記を除けば 撮影取材可能 ▶特別許可によりマスク着用や社会的距離の免除可能 ▶撮影開始・終了時にクルー全員の検温・健康チェック	ロケ地によっては 現地クルーでも 撮影許可証が必要	▶都市部も地方も撮影のしやすさは大差なし ▶ケープタウンは撮影許可取得に手間がかかる	▶コロナにより撮影不可の場所はなし	▶ 一般外国人の入国は再開されていない ▶隔週で検討されているが、入国再開の時期は未定 ▶まずはビジネス出張が特別な条件付で許可されると 予想されている	▶多くの人々が失業したが、政府による補償が不十分 ▶ロックダウンにより倒産した人々が借金を抱え再起できていない ▶労働組合による解雇に対するストライキが多く起きている ▶ロックダウンに反対して市民的不服従を行っている人たちがいる ▶入国禁止により観光業が崩壊、倒産が続き失業率が増加
モザンビーク	▶マスク着用義務、手洗い必須 ▶イスラム系組織闘争のカボ・デルガード州移動制限 ▶上記以外の国内全土では移動制限なし ▶映画館や教会などでは50名以上の集会禁止	▶撮影許可を取得すれば 撮影取材可能 ▶クルーは全員マスク着用が必須 ▶室内で20名、屋外では50名以上集まることは禁止 ▶カボ・デルガード州での撮影は困難	現地クルーだけでも 撮影許可証が必要	▶都市部も地方も撮影のしやすさは大差なし	▶モザンビーク島 ▶バザルト諸島 ▶トーフビーチ ▶マプトの市場 など	▶ビザ発給停止中、 一般外国人の入国は不可能 ▶現在国際線はマプト-リスボンのみ運行中 ▶10/1より全ての国際線が再開するとのウワサ有 ▶入国には3日前までの陰性証明書が必要 ▶陰性証明書がない場合は2週間の隔離措置	▶制限緩和した途端、数週間で感染者数が3倍に増加した ▶政府自体がコロナ対策を遵守していない
モロッコ	▶マスク着用義務有 違反者には罰金 ▶マラケシュやタンジエ等で移動制限有 ▶マラケシュなど観光地では街の賑わいが無い	▶移動制限された街での撮影には別途許可証が必要 ▶クルーもコロナ対策が必要 ▶上記を除けば 撮影取材可能	現地クルーだけでも 撮影許可証が必要	▶風景など簡単な撮影は国内どこでも可能	▶コロナにより撮影不可の場所はなし (主要観光地はどこも閑散としている)	▶同国居住者やその家族等以外は入国不可 ▶ 一般外国人の入国は再開されていない	▶外国人観光客に大きく依存しているため収入が生まれない ▶住民の90%が観光従事者であるマラケシュでは特に深刻 ▶感染者は減っており、どこで折り合いをつけるかが問題
ルワンダ	▶マスク着用義務 ▶19時～5時の夜間は外出禁止 ▶オフィスなどで働く人数の制限 ▶バーは依然閉鎖中 などの制限が継続中	▶マスク着用、社会的距離確保などコロナ対策が必要 ▶19時～5時は夜間外出禁止 ▶上記を除けば 撮影取材可能	現地クルーだけでも 撮影許可証が必要 (ほとんどの現地クルーは 取得済み)	▶都市部も地方も撮影のしやすさは大差なし	▶ビルンガ国立公園(マウンテンゴリヤ) ▶アカゲラ国立公園 ▶キブ湖 ▶ユングエの森 など	▶国際空港が再開、空路での 外国人の出入国は可能 ▶陸路国境地帯は未再開 ▶出発2日前までに受けた検査の陰性証明書が必要 ▶到着時にも再度検査が必要 費用は被検者が負担	▶ルワンダ雇用の3割を占める観光接客業が低迷 ▶多くの人々が失職し経済が崩壊 ▶現在も感染は広がっているものの小規模に抑えられている